

2025 年度 大私教 夏季教育研究集会

米不足や異常な物価高騰、上がらぬ賃金、突出する軍事予算など社会不安を背景に、生きづらさを抱える人たちが起こす様々な事件が頻発しています。大学生を含め、子どもの自死に歯止めがかからず高止まりしています。私たちは子どもたちと安心して生きられる社会をつくるため、共に学び考え合うことが求められています。今次夏季教研にはドラマ『宙わたる教室』の主人公・藤竹先生（窪田正孝）のモデルとなった久好圭治さんをお招きし、定時制高校科学部での活動を通して出会ってきた生徒たちとの関わり、小説・ドラマの裏話等を交えながら、どのような教育、学びが必要とされているか講演をいただきます。

記念講演

「学びってなんやろう 学校ってなんやろう

～定時制科学部から学ぶ人間らしい生き方」（仮題）

定時制高校でやんちゃな子や不登校の子どもを相手にして感じるのは「子どもたちが大事にされてない」ことです。今回の選挙で「教育無償化」を多くの政党が掲げましたが、むしろ私は小学校教育を充実させ、小学校の1学級の定員を20人程度にすべきではないかと思います。そのために教員を増やし、生徒に丁寧に向き合う学校になって欲しいです。答えを見つける、解き方を探す授業も大切ですが、それだけではなく「理解すること」をきちんと身につける教育がもっと必要であると感じます。（「大阪革新懇だより第235号」インタビュー）

【講師】

久好圭治さん（元府立大手前・春日丘高校定時制教諭・

現在は府立今宮工科高校定時制非常勤講師・元大阪大学大学院理学科特任研究員）

「東京都立西新宿高校定時制」で科学部をつくり、様々な生活背景を持つ生徒たちとの関わりや、火星における重力実験を通して生徒たちが変化していく「もう一つの青春群像」を描いた小説『宙わたる教室』（伊与原新）。久好さんは主人公、藤竹葉先生のモデル。久好さんの定時制高校で実践に取材した同小説は昨年10月からNHKがドラマ化（全10回）し、大きな話題を呼んだ。



日時 **6月21日（土）15時～18時00分 開会全体会／記念講演**

※夕食後は青年分科会と各種交流会

（「久好圭治さんともっと話がしたくなりました」など）21時過ぎから「夏の夜のつどい（大交流会）」

22日（日）9時～12時 分科会／12時10分～30分 終わりの会

会場 全体会・記念講演・分科会・終わりの会 秋桜高校

（貝塚市新町2-10 南海本線難波から30分

貝塚駅西出口より南へ徒歩5分）

参加費 参加のみ1000円（資料代込み）

※夕食のお弁当（700円程度）の注文を受け付ける予定です。

宿泊 ホテルサンライズイン（大阪府貝塚市中町1-4

貝塚駅西口を出た後、線路沿いに大阪方面へ歩いて踏切横の交差点を左折してすぐ徒歩約3分）

宿泊 シングル6500円、ツイン5500円、トリプル5000円（手作りの和朝食付き）/ほかに格安プランもあります。

※分科会は各校からのレポート報告をうけ、討議し、その成果と課題を学び合います。「職場の要求と組合活動」「HR・行事づくり」「授業づくり」「生徒の自主活動」「これからの公費助成運動」「子どもの命と健康を考える」など
※2日間とも保育を予定しています。

※22日（土）は梅書房による政治や社会、民主主義、ケア、ジェンダー、民主主義、教育関係などの書籍や絵本などの販売があります。

主催 大阪私学教職員組合 参加申し込み&問い合わせ 06-6763-3201 村井まで

